

令和7年度
シラバス

教科・科目	国語・言語文化	単位数	2
-------	---------	-----	---

学年・クラス	1 学年（必修・選択）	担当者	木村 日和
使用教科書	新編言語文化（大修館書店）		
使用副教材	これからの古典文法〔改訂版〕（尚文出版）		

目 標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- （１）生涯にわたる社会生活に必要な基礎的な国語の知識や技能を身に付けるとともに、主体的に我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
- （２）問題解決に向け、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを分析し、広げたり深めたりすることができるようにする。
- （３）言葉が持つ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を持ち、言葉を通して他者や地域、社会に関わろうとする態度を養う。

授業の内容・進め方

授業の内容：教科書教材をもとに文学に関する基礎知識と読解能力、および探求意欲の向上を図る。

進め方：教科書教材の読解を中心に言語活動を展開し、単元目標の言語能力の向上を図る。

適宜、課題や班活動に取り組むが、板書を中心に説明の理解に注力する時間もある。

なお、ノートは手書き以外の方法で取っても良いが、ICT機器の不適切な使用は認めない。

考 査：授業内の言語活動等を通して学習した国語力や文学に関する知識の理解度、読解能力の向上を確認する。

例えば、人物像の読解を中心に単元を実施した場合には、課題本文を通して文章に描き出された古典世界の人物像についての的確に読み取ることができるようになってきているかを設問において確認する。

評価規準（観点別達成目標・評価項目）

評価の観点	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
観点別達成目標	- 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して語感を磨き語彙を豊かにしている。 - 古典の世界に親しむために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。	「書くこと」において、自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫している。 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、我が国の言語文化についての考えを持っている。	- 学習の見通しを持って自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、表現の仕方等を工夫しようとしている。 - 作品に描かれた情景、人物像等について、積極的に自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化についての考えを持とうとしている。
評価の割合	1	1	1

	評価の観点	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
評価項目	定期考査（年2回）	◎	◎	△
	各単元における提出課題	◎	◎	◎
	単元テスト等のまとめ課題	◎	◎	△
	授業中の様子	○	○	◎
	長期休業課題	○	○	◎

・観点別評価 3つの 観点別に各評価項目の達成率でA・B・Cを決定する。

A：十分満足できる

B：おおむね満足できる

C：努力を要する

・評価・評定 観点別評価から総合的に成績（評価・評定）を決定する。

指導計画及び単元別評価基準

学 期	月	単元	学習内容	評価規準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
前 期	4	日本語の特徴（特に文字について）を理解しよう。	本文の内容と自分の考えをスライドに整理する。	・我が国の言語文化の特徴的な語句の量を増やし、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して語感を磨き、語彙を豊かにしている。 ・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。	・国語科の「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述をもとに的確にとらえている。	日本語の表記の特色や独自性について、学習した内容をもとにして自らの言語感覚を磨き、語彙を増やすことができるよう、見通しを持って粘り強く取り組もうとしている。
	5	文章の特色（文体）や、表現の特色（言葉選び）に着目しよう。	作品の良さを表現するよう工夫してポップを作る。	・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。	・国語科の「読むこと」において、文章の構成や展開、表現のしかた、表現の特色について評価している。	登場人物の人物像や、心情を読み解きに興味を持ち、作品の構造を理解できるよう、見通しを持って粘り強く取り組もうとしている。
	6	和歌や古文に触れて、古典に親しもう。 〈※〉 <u>JMMSとの交流単元を併せて実施予定。</u>	作品の良さや面白さについて、本文から読み取ったことを共有する。	・古典の世界に親しむために必要な文語のきまり、古典特有の表現などについて理解している。 ・時間の経過や地域の文化的特徴などによる文字や言葉の変化について理解を深め、古典の言葉と現代の言葉とのつながりについて理解している。	・国語科の「読むこと」において、作品や文章に表れている、ものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・国語科の「読むこと」において、文章の構成や展開、表現のしかた、表現の特色について評価している。	古文作品や和歌を読み解くことに興味を持ち、積極的に音読したり響きやリズムを味わったりして、古文を読み味わえるよう見通しを持って粘り強く取り組もうとしている。

7	古典世界の価値観を感じ取ろう。 〈※〉 <u>和歌や物語、随筆等の作品から得た学びを活かして、</u> <u>ホストファミリーに渡すメッセージカード等を作成。</u> ・和歌カード ・創作絵巻物 ……etc	筆者の人物像に則して文体等を工夫し、オリジナルの現代語訳を作成する。	・古典の世界に親しむために必要な文語のきまり、古典特有の表現などについて理解している。	・国語科の「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・国語科の「読むこと」において、作品や文章に表れている、ものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	『枕草子』を読み解くことに興味を持ち、作者のものの見方や感じ方を読み取り、自分の考えを持つことができるよう、見通しを持って粘り強く取り組もうとしている。
	漢文の訓読法を理解し、漢文を身近に感じよう。	ワークシートに則して演習し、訓読法を理解する。	・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 ・古典の世界に親しむために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。	・国語科の「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えを持っている。	漢文の読み解きに興味を持ち、訓読方法を正確理解できるよう、見通しを持って粘り強く意欲的に取り組もうとしている。
	前期期末考査				
9	どのように生きるべきか、漢文作品から学び取ろう。	各種作品から学び取れる教訓について考え、共有する。	・古典の世界に親しむために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。	・国語科の「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・国語科の「読むこと」において、作品や文章に表れている、ものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	漢文の読み解きに興味を持ち、漢文作品を通して自身のものの見方や感じ方、考え方を深めたり広めたりできるよう、見通しを持って粘り強く取り組もうとしている。

		自分たちの思いや体験を活かして、お気に入りの本を広めよう。	本文から読み取れるテーマに沿った本を集め、ブックガイドを作成する。	・書き言葉の特徴や、役割、表現の特色などをふまえて、正確さ、伝わりやすさ、適切さに配慮した表現や言葉遣いについて理解して使っている。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。	・国語科の「書くこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について留意しながらブックガイドを作成している。 ・国語科の「書くこと」において、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料の良さや味わいを吟味し、表現したいことを明確にしている。	紹介する作品の場面の様子や人物の心情などを、読み手が想像して当該作品に対する関心を持てるようなブックガイドを作成することができるよう、見通しを持って粘り強く取り組もうとしている。
後期	10	日本語の中に見える日本文化を探ってみよう。 <u>※防災週間の実施に伴い、本文だけでなく、関連する題材を用いて思考する。</u>	本文を参考にして日本語の特質についてレポートにまとめる。	・我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。	・国語科の「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確にとらえている。	日本文化の特徴について筆者の主張をとらえることに興味をもち、日本文化の特色について理解を深めることができるよう、見通しを持って粘り強く取り組もうとしている。
	11	古典作品と読み比べてみよう。	原作（古文作品）との読み比べを通し、オマージュ作品の良さを考察する。	・常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字を書き、文や文章の中で使っている。 ・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。	・国語科の「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。 ・国語科の「読むこと」において、作品や文章に表れている、ものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。	作品の読み比べを通して、言葉がもつ価値への認識を深め、作品の良さを読み味わうことができるよう、見通しを持って粘り強く取り組もうとしている。

	12	名演出家になりきり、文脈を意識した朗読の脚本を作ろう。	本文の描写を参考に、世界観を表現できるように朗読脚本を作成する。	・古典の世界に親しむために必要な文語のきまり、古典特有の表現などについて理解している。	・国語科の「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・国語科の「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。	作品に興味をもち、登場人物の行動や場面の展開、和歌に表れた心情を読み取ることができるよう、見通しを持って粘り強く取り組もうとしている
	1	「旅」とはどのようなものか考えてみよう。	本文を参考に旅に対する価値観の異同を考察する。	・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。	・国語科の「読むこと」において、作品や文章に表れている、ものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 ・国語科の「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。	作品に興味を持ち、文章の展開や和歌の内容、登場人物の心情を読み取ることができるよう、見通しを持って粘り強く取り組もうとしている。
	2	孔子になりきり、クラスの弟子達に教えを説こう。	孔子の考えについて具体例を踏まえて説明する講話文を作成する。	・古典の世界に親しむために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。	・国語科の「読むこと」において、作品や文章に表れている、ものの見方、感じ方、考え方をとらえ、内容を解釈している。 ・国語科の「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について考えを持っている。	漢文を読むことに興味をもち、『論語』と現代との関わりについて考えを深めることができるよう、見通しを持って粘り強く取り組もうとしている。

3	評論家になりきって漢文作品に評価レビューをつけよう。	『人面桃花』に対し、各生徒の多様な観点で評価レビューを作成する。	・我が国の言語文化への理解につながる読書の意義と効用について理解を深めている。	・国語科の「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。 ・国語科の「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。	漢文に興味をもち、登場人物の人間性や物語の面白さを的確に読み取ることができるよう、見通しを持って粘り強く取り組もうとしている。
	後期期末考査				
	名作家になりきって、文学作品を創作してみよう。	第十一夜の創作を通して、文学作品の創作について学ぶ。	・書き言葉の特徴や、役割、表現の特色などをふまえて、正確さ、伝わりやすさ、適切さに配慮した表現や言葉遣いについて理解して使っている。 ・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。	・国語科の「書くこと」において、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料の良さや味わいを吟味し、表現したいことを明確にしている。 ・国語科の「書くこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について留意しながら、文学を創作している。	作品の内容に興味を持ち、その文体や表現の特色を捉えて、創造的に自身の知見を活かした接続ができるように、見通しを持って粘り強く作品の読み解きと自己の創作に取り組もうとしている。